

日本都市社会学会ニュース

NO. 84 (2009.11.9)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒108-8636 東京都港区白金台1-2-37

明治学院大学社会学部浅川達人研究室内

e-mail：usocio@mail.meijigakuin.ac.jp

FAX：03-5421-5352

(振替口座：00140-4-703976)

URL：<http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/>

第27回大会の報告

伊藤泰郎（広島国際学院大学）

日本都市社会学会第27回大会は、まだ暑さも残る9月12日（土）13日（日）の両日にわたり、県立広島大学広島キャンパスで開催されました。大会参加者は83名（会員76名、非会員7名）でした。地方大学を会場としたことや同じ日程で日本家族社会学会が開催されたこともあって、参加者数はいくらか少なめではありましたが、シンポジウムやテーマ部会、自由報告部会、さらには懇親会などにおいて、活発な議論が行われました。

自由報告部会は、初日と二日目の午前中に2部会ずつ計4部会が設けられ、20本の報告が行われました。多彩な報告はいずれも興味深いものであり、2つの部会に参加者が分かれてしまうのはもったいなかったのですが、それぞれの部会に内容的に関連した報告が揃ったこともあって、報告者や質問者との間で議論を深めることができたのではないかと思います。

初日の午後には、テーマ部会「アジア都市の現在-グローバル化と都市経済、コミュニティ、文化の変容」が開催されました。アジア都市に関しては、これまでスラムなどを対象に貧困の問題に関する研究が蓄積されてきた一方で、世界システム論のような巨視的な研究が行われてきました。しかし、今回のテーマ部会は、近年の経済発展によるダイナミックな変化を踏まえ、流通・消費といった領域や都市内部の文化的な多様性に注目するという刺激的な試みでした。問題提起として、日本や欧米の小売業のアジア都市への進出、シンガポールの芸術文化政策、ソウルのエスニック・グループの居住分布と多文化政策に関する3本の報告がなされ、討論者・フロアを交えて様々な視点から議論が展開しました。

二日目の午後には、シンポジウム「世代と移動の都市社会学-戦後日本の地域社会変動を読み解く」が開催されました。シンポジウムでは、少子高齢化と人口減少時代への移行という日本の地域社会の状況に対して、都市社会学がどのような展望を提示できるかが課題として掲げられました。過疎農山村、地方都市、大都市のそれぞれをフィールドとする3名の方から、特に世代と移動に着目した報告があり、討論者・フロアを交えた議論が行われました。家族の分散居住のありようを丹念に追った報告が行われたこともあって、議論は家族をめぐる問題を軸として展開しました。また、世代によってコミュニティの含意が異なるのではないかという指摘は興味深く、生活の共同や地域の活力の維持をどのような範囲で行っていくべきかという問いかけは、都市社会学の今後を考える上で重要なものであったと思います。

最後になりましたが、すばらしい環境で討論や懇談ができましたことを、開催校や事務局の皆さま方に感謝いたします。

会費納入についてのお願い

会費の納入率は現在、70%を割るなど大変厳しい状況にあります。このままですと、来年度には繰越金が底をつく深刻な事態も予想されます。大会の開催、年報の発行など学会活動は、すべて会員の皆様から納入される会費によって支えられています。本ニュースにも振り替え用紙が同封されていますので、ぜひとも納入のほどよろしくご願ひいたします（すでに納入済みの皆さまは、次回以降、本用紙をご利用いただければ幸いです）。

この度、9月の総会において会長に再任されましたことを、まずご報告させていただきます。改めて大きな責任を感じております。この2年間、日本における都市社会学研究のさらなる進展、そして都市社会学の研究教育の基盤拡充のために何が出来るかを、理事会や各委員会の皆さんとともに考えてまいりました。その成果のいくつかは具体的な形を取り始めています。

たとえば、若手研究者の皆さんの活発な研究活動を踏まえ、若手奨励賞は「著書の部」と「論文の部」の二部構成に分けられ、次回からこの方針の下で選考が行われることになりました。また、本学会会員の研究成果が国内外でより一層活用されることをめざし、バックナンバーを科学技術振興機構（JST）の電子ジャーナル上において公開する方向で、現在必要な作業に着手しています。これらについては、本ニュースにも大切なお知らせがありますのでぜひご覧ください。

しかしながら、学会の活動は何と言っても、会員の活発な研究活動、そしてそこから産み出される豊かな成果によって支えられています。学会大会の開催、年報やニュースの発行、その他多くの日常的な活動を通じて、学会としてどのような貢献を、会員の皆様に対して、また広く社会に対して、なすことができるか。この点を、新たな理事会・委員会の皆さんとともに考え、できる限り実行に移してまいりたいと考えております。引き続き、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

総会の記録

総会は、大会1日目の9月12日（土）、下記の次第にそって行われました。

1. 開会の辞（谷 富夫理事）
2. 会長挨拶（町村敬志会長）
3. 開催校あいさつ（山本 努会員）
4. 座長推挙（鱒坂 学会員を選出）
5. 諸報告
 - (1)2008年度理事会報告
町村敬志会長より2008年度の理事会に関する報告がありました。
 - (2)2008年度企画委員会報告
渡戸一郎常任理事（企画委員会委員長）より2008年度の企画委員会活動についての報告がありました。
 - (3)2008年度編集委員会報告
早川洋行常任理事（編集委員会委員長）より2008年度の編集委員会活動についての報告がありました。
 - (4)新入会員紹介
江上渉理事より新入会員13名の紹介があり、全員拍手をもって確認されました。
 - (5)その他
”「東京」を観る、「東京」を読む。”展（日本大学文理学部主催）の後援に関する報告と紹介がありました。
6. 第6回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会報告および授与式
玉野和志選考委員長より選考過程および結果の報告があり、西村雄郎『大阪都市圏の拡大・再編と地域社会の変容』（ハーベスト社、2008年）に同賞が授与されました。なお、受賞者には会長より賞状と記念品が授与されました。

7. 議事

(1)役員選出規定の改正について

町村敬志会長から「役員選出規定」の理事（地方区）の選出方法について、「各地区の有権者が同地区の者を1名のみ選んで記入」から「各地区の者を1名のみ選んで記入」とする改正案が出されました。審議の結果、原案通り承認され、2010年4月1日から施行することとなりました。

(2)日本都市社会学会若手奨励賞内規の改正について

町村敬志会長から、若手奨励賞に「著書の部」と「論文の部」を設け、受賞対象件数は「著書の部、論文の部あわせて1件以上4件以内」とするという改正案が出されました。審議の結果、原案通り承認され、2009年9月12日より施行することとなりました。

(3)2008年度決算および監査報告

江上渉理事から2008年度決算についての報告、次いで森岡清志監事から監査報告があり承認されました。

(4)2009年度予算承認の件

引き続き江上渉理事から2009年度予算についての説明があり承認されました。

(5)役員選出の件

1)選挙管理委員の推挙

町村敬志会長より野辺政雄会員ほか4名の会員に選挙管理委員を委嘱するとともに、野辺会員に選挙管理委員長を委嘱することが提案され、承認されました。

2)会長選挙

役員選出規定第1条に基づき投票が行われ会長が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

町村敬志会員29票 次点（玉野和志会員3票、谷富夫会員3票、渡戸一郎会員3票）

3)理事選挙

役員選出規定第3条および第5条に基づき投票が行われ、全国区4名、地方区3名の新理事が選出されました。投票結果は以下のとおりです。

全国区（4名）

渡戸一郎会員25票 玉野和志会員23票 西村雄郎会員14票 浅川達人会員11票
（次点：稲月正会員10票）

地方区（各地区1名）

関東地区 後藤範章会員8票 （次点：江上渉会員6票）

中部・関西地区 早川洋行会員5票 （次点：小松秀雄会員1票、松宮朝会員1票、
山本かほり会員1票）

中国・四国地区 青木秀男会員7票 （次点：稲月正会員6票）

※なお北海道・東北地区については、有権者が不在であったため理事を選出できませんでした。

4)監事選挙

役員選出規定第3条に基づき投票が行われ新監事が選出されました。投票の結果は以下のとおりです。

江上渉会員14票 稲月正会員12票 （次点：園部雅久会員5票、広田康生会員5票）

(6)新事務局について

町村会長から事務局を立教大学江上渉研究室から明治学院大学浅川達人研究室への交替が説明され、承認されました。

(7)次回大会の件

町村会長より2010年度の大会（第28回大会）を2010年9月11日（土）、12日（日）に、日本大学文理学部で開催する旨の報告があり承認されました。また、大会開催校を代表して日本大学文理学部後藤範章会員より挨拶がありました。

8. 閉会の辞（谷 富夫理事）

2008年度決算報告および2009年度予算

2008年度 決算（2008年4月1日～2009年3月31日）

収 入				支 出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	30,000	15	消耗品費	50,000	720	文具、封筒等
学会費	1,150,000	1,165,000		通信費	160,000	221,050	
広告収入	50,000	50,000	08	ニュース印刷費	120,000	48,090	350 × 1 ㄥ400 × 1
雑収入	20,000	21,954	利息・複写権収入等	年報印刷費	600,000	672,560	第26号450部
年報販売	150,000	154,600		大会開催費	150,000	150,000	第27回大会
				役員・委員会費	250,000	388,700	役員・委員旅費補助含む
				事務局費	400,000	197,267	事務局手当、アルバイト代含む
				学会賞費	15,000	11,151	
				企画委員会費	80,000	58,000	
				編集委員会事務局費	80,000	29,782	
繰越金	958,691	958,691		予備費	453,691	0	
計	2,358,691	2,380,245			2,358,691	1,777,320	
				次年度繰越金		602,925	

2009年度 予算案（2009年4月1日～2010年3月31日）

収 入			支 出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	40,000	文具、封筒等
学会費	1,150,000		通信費	200,000	
広告収入	50,000	08年度分	ニュース印刷費	100,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	利息、複写権収入等	年報印刷費	500,000	第26号450部
年報販売	150,000		大会開催費	150,000	第27回大会
			役員・委員費	350,000	役員・委員の旅費補助を含む
			事務局費	300,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	15,000	
			企画委員会費	80,000	非会員旅費を含む
			名簿印刷費	50,000	
			編集委員会事務局費	50,000	編集関係通信費、事務局員手当を含む
			予備費	167,925	
繰越金	602,925				
計	2,002,925			2,002,925	

2009年度臨時総会の記録

9月13日（日），新理事会終了後の午後1時から臨時総会が開催されました。町村敬志会長より以下の報告があり，承認されました。

1. 役員選出規定第6条に基づき，理事のうちから玉野和志，早川洋行，渡戸一郎を常任理事として指名した。
2. 理事のうち，各種委員会の委員長および委員の分担は以下のとおり。
 - [企画委員会] 委員長：早川洋行理事
 - [編集委員会] 委員長：玉野和志理事
 - [国際交流委員会] 委員長：青木秀男理事
3. 各委員会担当理事，学会賞選考委員会を除く各委員会委員および日本都市社会学会若手奨励賞推薦委員については人選中であり，総計でかなりの数にのぼるので，会員各位のご協力を賜りたい。

第6回日本都市社会学会（磯村記念賞）受賞作品の紹介と選考理由

2008年度日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会は、2回にわたって開催され、次の作品を第6回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品とすることを決定した。

1. 受賞作品

西村雄郎『大阪都市圏の拡大・再編と地域社会の変容』（ハーベスト社）2008年5月

2. 受賞理由

最終候補として残った作品のうち、とりわけ西村、吉原、田中の3作品の評価が高かった。西村作品と田中作品は実証的な研究であり、吉原作品は理論的な問題提起を意図した研究で、一律に評価することが困難であり、複数受賞という方策も案として検討されたが、テーマの今日性、作品としてのまとまり、研究としての完成度などの点で、総合的に見て西村作品がもっともバランスがよいと判断し、他の2作品が甲乙つけがたいものとして評価された点を併記するという条件で、西村作品に第6回日本都市社会学会賞を授与することが決定された。

西村作品は、大阪都市圏の拡大・再編にともなう地域社会の変容過程を、いくつかの具体的な地区に関する詳細な実証研究を積み重ねることで、総合的に明らかにしようとしたもので、大阪や神戸の中心部に流入していった石川県や奄美出身の労働者ならびに在日の人々の歴史的な定着過程の実際、大阪のインナーリングエリアとよばれる都心周辺の古いタイプの郊外住宅地の変容と、そこでの不動産としての土地・建物の形成過程、さらには最近における滋賀県を中心とした大阪都市圏の拡大・再編と、それにとともなう南米の日系人を中心とした外国人労働者の流入などの実態を、堅実な実証研究によってひとつひとつ明らかにしている。その調査研究の手堅さとそれぞれの事例を都市全体の中に位置づける理論的な構想力は、これからの都市研究における模範となるもので、非常に高い評価を得た。また、地方出身者や在日の人々、さらには外国人労働者の営みを都市の拡大・再編過程の中に位置づけた点でも、第6回日本都市社会学会賞の受賞作品として最も相応しいとの委員会全体の評価を得た。

惜しくも選にもれた田中重好『共同性の地域社会学』については、個々の実証研究の堅実さと精緻さにかけては西村作品をしのぐものであり、また吉原直樹『モビリティと場所』の現代的できわめて刺激的な問題提起は、多くの都市研究者に示唆を与えるものであり、すてがたい魅力があるとの高い評価を得た。選考委員会として、これら2作品が受賞作と同等の評価を得たことを正当に伝えるべきとの点で一致を見た次第である。

（日本都市社会学会賞選考委員会委員長 玉野和志）

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

まだ学会費を納入されていない会員の方には、学会費納入用の振込用紙を本ニュースに同封いたしましたので、お早めに納入くださいますようお願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入していただきますようお願い申し上げます。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、平成21年1月に全国銀行データ通信システムに接続することにより、全国の金融機関（一部を除く）と相互に振込ができるようになりました。他の金融機関から本学会の口座に振込む場合には、以下の店名・預金種目・口座番号・受取人名をご指定くださいますようお願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行	預金種類	当座
金融機関コード	9900	口座番号	0703976
店番	019	受取人名	ニホントシシャカイガツカイ
店名(カナ)	〇一九店（ゼロイチキュウ店）		

なお、前年度（2008年度）までの学会費が未納の会員の方には『日本都市社会学会年報』27号をお送りできませんのでご了承ください（事務局が学会費納入を確認し次第、『年報』をお送りいたします）

す)。また、継続して5年以上会費を滞納している会員の方は、2009年度中に滞納分の会費を納入していただかないと会員資格を失うこととなりますので、ご注意ください。

2. 第28回大会開催について

第28回大会は、2010年9月11日（土）、12日（日）に、日本大学文理学部で開催されます。

3. 理事会報告

(1)2008-2009年度第4回理事会報告

9月11日（金）に、年次大会前の第4回理事会が県立広島大学にて開催されました。本理事会では1)『日本都市社会学会年報』の電子ジャーナル化について、2)2008年度決算および2009年度予算について、3)学会賞選考結果について、4)次期理事会への申し送りについて、5)次回大会について、審議されました。

(2)2009-2010年度第1回理事会報告

2009年度第1回理事会は、9月13日（日）、第27回大会2日目に開催され、理事の役割分担が決定されました。詳しくは、「臨時総会の記録」の項をご覧ください。

(3)2009-2010年度第2回理事会報告

2009年度第2回理事会は、10月18日（日）15：00より明治学院大学にて開催されました。

1) 企画委員会、編集委員会からそれぞれの委員候補が確定したことが報告されました。委員は以下のとおりです。

企画委員会 早川洋行（委員長・担当理事）、後藤範章（担当理事）、徳野貞雄会員、中西典子会員、山本かほり会員、山下祐介会員、高木恒一会員、山本薫子会員、二階堂裕子会員、武田尚子会員、田中研之輔会員、南川文里会員

編集委員会 玉野和志（委員長・担当理事）、西村雄郎（担当理事）、渡邊登会員、近藤敏夫会員、西山志保会員、新原道信会員、黒田由彦会員、飯田俊郎会員、立山徳子会員

国際交流委員会 青木秀男（委員長・担当理事）、西村雄郎（編集委員会担当理事）、魯富子会員、立山徳子会員、山本かほり会員、西山志保会員

2) 日本都市社会学会若手奨励賞の推薦委員が町村会長から委嘱されることになりました。

3) 『日本都市社会学会年報』の電子アーカイブ化についての会員への周知の方法が議論されました。

4) 韓国・地域社会学会との交流について協議しました。

（事務局担当理事 浅川達人）

学会誌「日本都市社会学会年報」電子アーカイブ化に伴う

著作権移譲に関するお願い

本学会は1983年の創刊以来、学会誌「日本都市社会学会年報」（以下「本誌」という）を刊行してきましたが、この度、科学技術振興機構の電子アーカイブ対象選定委員会によって、本誌が創刊号以降の全号を電子化してアーカイブ化される対象として選定されました。

この電子アーカイブとは、誌面を電子データ化し、同機構のインターネットウェブサイト上で公開することを言います。これにあたっては、電子化された論文等はすべてが同機構のサーバーに保存されるため、著作権が本学会に帰属していることが条件になります。本誌の電子アーカイブ化にあたっては、著作権法により、掲載された論文等の著者からその著作権（具体的には複製権、公衆送信権）の許諾または譲渡を必要とします。

本学会では1999年7月の「編集規程」に初めて「本誌に掲載された論文などの著作権は日本都市社会学会に帰属する」ことが謳われています（年報20号参照）が、それ以前の号の論文等については、著作権の移譲が明確にされていない状態となっております。

これらの事情から、本電子アーカイブ化を進めるにあたり、創刊号以来の著作についても著作権は本学会に帰属していただくことと致したく、本来であれば会員ならびに著者の皆様お一人ずつに「著作権の許諾手続き」を行うべきですが、この告知を以って著作権の譲渡をお願い申し上げる次第です。

万一この件に関してご了承いただけない場合、あるいはご不審の点がある場合は、2009年12月31日までに本学会事務局まで文書か電子メールでお申し出下さい。本学会では、このお知らせが著者のみなさまの目に触れることを前提としておりますが、何らかの事情でこの件をお知りになる機会がない場合には、期限を過ぎましてもあらためて個別にご相談させていただきます。なお、お申し出がない場合には、ご了承いただいたものとし、電子アーカイブとして公開する時期が参りました段階で、論文等を掲載させていただきたいと存じますが、公開後の会員ならびに著者のみなさまからの記事の取り下げ要求に際しても柔軟に対応させていただきます。

なお、掲載許諾される論文等に掲載されている個人名、写真等の扱いに関してご相談がある場合は、上記の期限までに直接、担当理事までお申し出下さい。

(担当：常任理事 渡戸一郎)

編集委員会からのお知らせ

◆ 編集委員会事務局の移転について

新体制の編集委員会の発足に伴い、編集委員会事務局を滋賀大学の早川研究室から首都大学東京の玉野研究室へ移転することになりました。引き続き、完全原稿ご提出以降の作業をハーベスト社へ業務委託する予定です。この他、基本的にこれまでの編集委員会の方針を踏襲して編集事務を進めてまいりますので、よろしく願い申し上げます。

新編集委員会事務局の住所は次の通りです。投稿先の宛名も次の住所になりますので、ご注意ください。

〒192-0397 八王子市南大沢1-1
首都大学東京人文科学研究科
社会学分野 玉野和志研究室気付
日本都市社会学会編集委員会事務局
Email : tamano@k.email.ne.jp

◆ 『日本都市社会学会年報』28号（2010年発行）自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』28号（2010年発行）に掲載する「自由投稿論文」「研究ノート」および「書評リプライ」を募集しております。投稿を希望される会員は『年報』27号（2009年度発行）に掲載されている編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿（3部）を2009年11月30日（消印有効）までに編集委員会事務局あてに、余裕をもって郵送してください。なお、25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点をお含みおきください。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしております。

投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。

(常任理事・編集委員長 玉野和志)

第3回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査

および推薦に関するお願い

日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。また、あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。2009年の総会で内規改正が承認されたことにより、今回からは、「著書の部」と「論文の部」を分けた上で、それぞれについて選考を行います。

対象 今回、対象となるのは、(1)2008年1月から2009年12月末日までに公刊された著書・論文であって、(2)公刊時点で、著者が、博士（後期）課程入学後10年以内であった、日本都市社会学会会員の研究業績です。

文献調査 上記の基準を満たす著書・論文を発表した若手会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2010年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦 上記の基準を満たす著書・論文のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績」をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。なお、他薦であつて、上記の対象基準(2)を満たしているかどうかを確認できない場合には、その旨の注記をお願いいたします。同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項を記入の上、2010年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。

宛先/問い合わせ先 学会事務局の住所は、本ニュース1頁目にあります。予算の関係上、送料は自己負担をお願いいたします。また、この件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mailをお願いいたします。

選考対象のリスト作成は、若手会員自身による文献調査報告や自薦がまずは基本となります。該当される方は、ぜひとも積極的に対応下さい。なお、若手奨励賞用の調査用紙・自薦他薦用紙は学会WEBサイトからダウンロードできますので、ご活用ください。

(会長 町村敬志)

会員異動

新入会員

<関東>

佐藤彰彦	一橋大学大学院	八尾祥平	首都大学東京大学院
川野辺義昌	港区役所/法政大学大学院	笠井賢紀	慶応義塾大学大学院
大津芳子	東京女子大学大学院	高鮮徽	明星大学人文学部
金知栄	一橋大学大学院		

<中部・関西>

徳田 剛	甲南女子大学・仏教大学ほか	丹辺宣彦	名古屋大学大学院
山北輝裕	関西学院大学大学院	小野貴史	大谷大学大学院
赤枝尚樹	大阪大学大学院		

<中国・四国・九州>

安 錦珠 広島大学大学院

所属・住所・電話番号等連絡先の変更

<中国・四国・九州>

二階堂裕子 ノートルダム清心女子大学

学会事務局より

- ◆学会事務局の移転について：2009年度から2011年度までの2年間、学会事務局が明治学院大学社会学部浅川達人研究室におかれることになりました。なお、学会ニュース1ページ目に新事務局の連絡先が掲載されていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前学会事務局同様、emailもしくはファクシミリにてお願いできれば幸いです。
- ◆第27回大会は天候にも恵まれ活気に溢れた大会になりました。開催校の山本努会員をはじめ関係者の皆様に、新事務局からもあつく御礼申し上げます。そして前学会事務局の江上渉会員、事務局幹事をされた加藤明子会員のご尽力に心から感謝申し上げます。
- ◆大会に参加されなかった会員の皆様で、2008年度までの会費納入済の皆様には『日本都市社会学会年報27号』と学会ニュースを同封いたしました。なお、『日本都市社会学会年報27号』の表紙に誤植がありました。早川洋行会員の著作についての書評論文の執筆者は、今野裕昭会員です。修正シールを同封いたしましたので、お手数ですが各自シールを貼付してください。
- ◆会費未納の会員の皆様には、学会ニュースのみを同封いたしました。
- ◆諸般の事情により「日本都市社会学会会員名簿2009年版」は、次回学会ニュースに同封させていただきます。ご不便をおかけしますが、ご海容くださいますようお願い申し上げます。(事務局)